

1. 集める

何についているの？一覧表で確認

「ベルマーク一覧表」には、すべての協賛会社と、どんな商品にベルマークがついているかが載っています。いつも目に付く壁や冷蔵庫の扉などに張っておくと、見落とすことが少なくなるでしょう。今まで知らずに捨ててしまっていた、意外な商品についているかもしれません。

いつも購入する食料品やお菓子などは、「ベルマーク付き」商品を意識するだけで、無理なく集めることもできます。

*ベルマーク一覧表は、財団のホームページにもあります。

地域の協力は大きな力に

最近は「社会貢献」「地域密着」を意識する会社やお店が増えています。使用済みインクカートリッジの回収などは、パソコンとプリンターを使う地域の会社などに協力してもらうと効率よく集まります。

地元のスーパーマーケットやコンビニエンスストア、公共施設などに回収箱を置かせてもらうのも方法です。個人で集めても「どこに持って行っていいかわからない」というケースもありますので、受け皿にもなります。買いたい設備品などの目標を決め、地域の回覧板などで協力・応援を求めて成功した例もあります。

定期的に回収

学校などで回収する場合は、回収袋や封筒を配

布するなどして、定期的に回収すると「ベルマークの日」がわかって効率が良いでしょう。封筒を子どもたちに返すとき「ありがとう」のスタンプを押すなど工夫している学校もあります。

マークはどこに？

ベルマークの大半は商品のパッケージや箱など、外から見てわかる場所についています。でも中には石鹸やキャラメルのように箱の内側だったりします。同じノートでも協賛会社によっても違います。各社のページでチェック！



2. 切り取る

切り方に決まりはありません

ベルマークには、小さなものもあれば大きなものもあります。2センチ四方が原則なのですが、商品の大きさや関係でやむを得ない場合があります。また材質も薄いビニールだったり、厚紙だったりとさまざまです。こういったベルマークに決まった切り方はありません。あくまでも、自分たちが仕分けや集計するときにやりやすい方法でかまいません。ベルマークの形や線に沿って切る必要はありません。

ただし大きめに切り取ると、あとで、枚数を数えたり、点数を計算したりするときに扱いやすいでしょう。「ビニール製のマークは、ホチキスでとめやすいように少しトジシロを残す」「ガムの小さいマークは、包装紙の半分ぐらいまで大きく」など、あらかじめ自分たちのルールを相談しておくといいでしょう。

ベルマークの形や線に
よって切る必要はありま
せん、少し大きめに切
ると扱いやすいですよ



ビニールのマークは
ホチキスでまとめや
すいようにトジシロ
を余分に残して……と



切り損なったときは

マークの端を切り落としたり、ベルマーク番号や点数を切り落としたりしても、半分以上残っていれば有効です。点数のわからないマークは、その協賛会社の最低の点数として扱われます。ただしベルマーク番号だけのものは無効です。

切らないマークも

「集める」でも紹介しましたが、使用済みインクカートリッジや紙容器の回収などは、協賛会社からの「点数証明書」はがきがベルマークになります。マークを切り取らずに、はがきを送ってください。

半分以上残っていれば
有効です。ただし点数の
わからないマークはその
会社の最低の点数に
なるのでご注意ください！



その点数証明
書のはがきがベル
マークの点数に?!

インクカートリッジや
紙容器は方法が
違うので注意しよう

